出演者リスト

南澪会合唱団

T1	石田　等＊	尾崎　納	斎藤　三朗	福野　成雄	藤田　徹夫	杉方　順二
	月川　兆	松波　謙至	古川　武士	新　栄一郎	（井上　英康）	
T2	今西　弘一	今村　肇	大内　一	久野　利夫	戸田　勝	服部　栄治
	丸尾　嘉重	宮内　泰	村山　徹郎	山田　稔＊	渡辺　義博	（宮内　隆造）
	（松本　嘉臣）					
B1	石井　欽三	石川　建夫	太田　一忠＊	片岡　正平	黒岩　勝彦	谷岡　昇
	廣岡　孝一	松田桂一郎	夜久　良弘	山内　荘作	米田　直也	横田　卓郎
	（木田　豊）	（西村　正生）	（田中　利治）			
B2	上木　喜昌	大道　彰	小倉　裕＊	鎌木　武男	下伊豆哲央	三栖　隆
	宮田　潤◎	村上　勇	森田　清	安井　永	和田　昭夫	（諏訪部和彦）

（　　）内は東京南澪会メンバーで合同ステージのみ出演

マーキュリー・グリー・クラブ

T1	石林紀四郎	岡野屋正男	小澤　荘二	田口　和義＊	中尾　丈夫	中山　光雄
	二宮　洋二	藤原　浩	丸山　達雄	吉岡　省吾		
T2	池田　信彦	石渡　尚夫	小室　滋＊	篠崎　博	太平　勲夫	長尾　明信
	新田　晴男	平野　真	松田　次郎	宮内　隆造		
B1	石原　隆	加藤　孝雄	黒田　修一＊	武田三千男	立川　昭夫	徳山　巌
	永井　宏	蓮　隆詔○	藤本　淳三◎	藤原　尚	星加雄一郎	光瀬　靖彦
B2	有馬　賢次	井上　清彦○	葛西　敏昭	小林　迪之＊	下村　肇	住田　誠蔵
	高倉　勇	竹内　克広	谷河　義久	野老　正明	中島　靖之	橋本　民生
	府川　朝次					

六甲男声合唱団

T1	川本　昭男	小林　和生	佐々木英洋	塙　四郎	松岡　茂雄＊	鷲尾　隆三
T2	赤司　健	河原　達	桐ヶ窪　卓	肥塚　禎夫	杉原　豊	寺井　洋一
	花岡　亜光◎＊	藤原　稔也	藤原　達也	矢島　侃	和久井　仁	
B1	浅野　洋	伊原吉之助	浮田　順一	加輪上敏彦	絹笠　吉弘	丹下　豊吉
	堀内　丈義	前田　豊治	松井　嘉和＊	松村　恭一	安田　稔	山本　和洋
	吉田　勲					
B2	東　尚良	石井　陽一	井上　和雄	大渕　覚	川島　國暉	田中　安夫
	長央徳太郎	永岡　昇司	増井　豊	増川　真澄	吉田　哲朗＊	

◎団長　○副団長　＊パートリーダー

ご一緒に歌いませんか？

連絡先

南澪会合唱団

http://www.nanreikai.com

尾崎　納　Tel/Fax 0742-47-7554　E-mail:ojamgc-sng@rio.odn.ne.jp

練習場:大阪市西成区岸里　大フィル会館練習場

マーキュリー・グリー・クラブ

http://old2.josuikai.net/circle/mgc/

井上　清彦　Tel.042-575-4616　E-mail:k-inoue3@jcom.home.ne.jp

練習場:東京都豊島区池袋　東京芸術劇場B2 リハーサル室

六甲男声合唱団

http://www.eonet.ne.jp/~ rokko-mc1954/top.html

藤原　達也　Tel/Fax 0798-20-2282　E-mail:tatsuya_fujiwara@nifty.ne.jp

練習場:大阪市中央区堺筋本町 大阪産業創造館15F

Male Choir Nanrei
Mercury Glee Club
Rokko Male Choir

旧三商大OB男声合唱団
第3回 交歓演奏会

三都のOB合唱団 ヨーロッパを歌う

南澪会合唱団
（大阪市立大学OB合唱団）

マーキュリー・グリー・クラブ
（一橋大学OB合唱団）

六甲男声合唱団
（神戸大学OB合唱団）

2007年11月17日（土）14:00

神戸新聞　松方ホール

神戸市芸術文化活動助成事業

ごあいさつ

ようこそおいで下さいました。

本日は東京、大阪、神戸と歴史と文化の異なる三都のOB合唱団がヨーロッパの歌をうたいます。

旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会は第1回が2003年に東京で、第2回が2005年に大阪で行われ、本日は第3回目で神戸では初めてのお披露目です。

南澪会合唱団は1940年、六甲男声合唱団は1954年、そしてマーキュリー・グリー・クラブは1999年にそれぞれ設立されました。三団体の母体はいずれも戦前の大阪、神戸、東京の商大、戦後は大阪市立大学、神戸大学、一橋大学となったいわゆる旧三商大の男声合唱団の卒業生です。

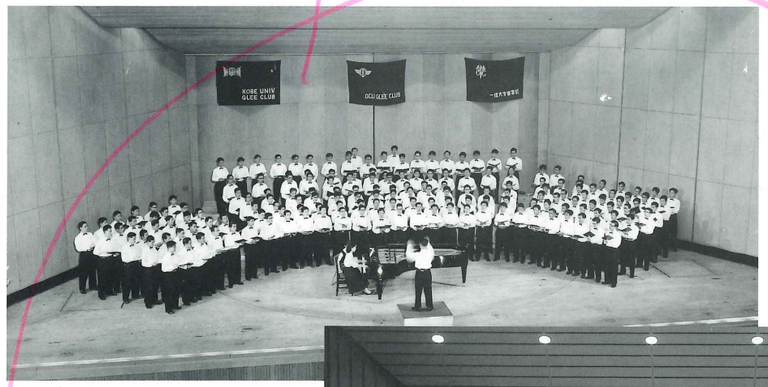
三商大は学問、文化、スポーツの分野で交流を重ね、戦後の学制改革後もその交流は続き現役学生間では男声合唱団同士で交歓音楽会も開催いたしております。

マーキュリー・グリー・クラブの結成を契機にOB合唱団でも交流を復活させようとの機運が盛り上がり、学生時代に交歓演奏会を経験した昔の仲間が再会し2003年に第1回旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会が開催されました。

旧三商大という共通のアイデンティティーを持つ母体から生れ、それ以外の方々も加わりそれぞれの文化的風土を加味した三都のシルバーOB合唱団がヨーロッパのジプシーの歌、シューベルトの歌、イタリアの歌をそれぞれの個性と持ち味で競演し、フォーレのレクイエムは全員で心を込めて共演いたします。　どうぞごゆっくりおくつろぎの上お楽しみください。

2007年11月17日

南澪会合唱団
マーキュリー・グリー・クラブ
六甲男声合唱団



1957年6月21日
旧三商大交歓音楽会
於 神戸国際会館大ホール
合同演奏　「兵士の合唱」

2005年3月19日
旧三商大OB合唱団交歓演奏会
於 大阪国際交流センター

Programme

エール交換　1. わが歌（全員）　2. 学生歌（南澪会）　3. 一橋の歌（MGC）　4. 商神（六甲）

南澪会合唱団

ブラームス作曲 福永陽一郎編曲
男声合唱とピアノのための　**ジプシーの歌**　　指揮 今西 弘一　ピアノ 石幸 千照

1. He,Zigeuner,greife in die Saiten	おおジプシーよ
2. Hochgetürmte Rimaflut	さかまくリマの流れ
3. Wiβt ihr,wann mein Kindchen	そなたの一等きれいなのは
4. Lieber Gott,du weiβt	人や知る
5. Brauner Bursche führt zum Tanze	つぶらな瞳の乙女
6. Röslein dreie in der Reihe	野辺には紅バラ
7. Kommt dir manchmal in den Sinn	君よしのべ
8. Horch,der Wind klagt	梢になげく風
9. Weit und breit schant niemand mich an	誰もかまってくれぬ
10. Mond verhüllt sein Angesicht	月さえかげる
11. Rote Abendwolken ziehn	夕雲あかく

マーキュリー・グリー・クラブ

委嘱作品 吉岡 弘行 編曲
男声合唱のための　**イタリアの歌**　　指揮 永井 宏　ピアノ 中野 マリ

Piacer d'Amor	愛の喜び	作曲 マルティーニ
La Serenata	ラ・セレナータ	作曲 トスティ
Che gelida manina	“ラ・ボエーム”より 冷たい手	作曲 プッチーニ
Non ti scordar di me	忘れな草	作曲 クルティス
Funiculi-funicula	フニクリ フニクラ	作曲 デンツア

Intermission

六甲男声合唱団

シューベルトの男声合唱曲　　指揮 井上 和雄　ピアノ 島崎 央子

Die Nacht	夜	詩 クルンマッヘル
Grab und Mond	墓と月	詩 ザイドル
La Pastorella	羊飼いの乙女	詩 ゴルドーニ
Gesang der Geister über den Wassern	水の上の精霊の歌	詩 ゲーテ
Nachthelle	夜の清けさ	詩 ザイドル

合同演奏

フォーレ作曲 レクイエム Op.48 より
吉岡 弘行 編曲による男声合唱版　　指揮 井上 和雄　キーボード 島崎 央子

Introit-Kyrie	入祭唱とキリエ
Sanctus	聖なるかな
Agnus Dei	神の子羊

南澪会合唱団

ブラームス作曲 ジプシーの歌

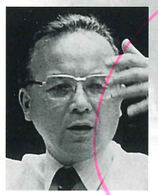
『ジプシーの歌』は、ピアノ伴奏をもつソプラノ、アルト、テノール、バスの4声部のためのもので、11曲からできている。ブラームスが、ハンガリー・ジプシーの要素をとりいれた音楽を好んで書いたことは、いまさらいうまでもない。この『ジプシーの歌』も『ハンガリー舞曲』と並んで、その方の代表作である。

しかし、『ハンガリー舞曲』がいわば編作であるのに対して、『ジプシーの歌』は、ハンガリーの民謡を25曲集めたものの歌詞からドイツ訳の11曲を選んで、それに独創的な見地から付曲されている。『ジプシーの歌』は、ブラームスが書いたものの中で、最も音響的な色彩のゆたかなものに属する。各11曲は、すべて4分の2拍子で、ジプシーの感傷や情熱を示す点で一致し、動機的・調的にも関係づけられてはいるが、それぞれ異なる技巧を駆使して、一つとして同じ色彩感覚を示していない。形式、旋律、リズムそして和声は、単純で親しみやすく、全曲がブラームスの数多い声楽曲の中で、最もひろく愛好され得るものとして役立っている。

全11曲は、ハンガリー・ジプシー的な性格を強くあらわしているが、そこには、一般的なブラームスの性格、すなわち精神的・音楽的な根本的な性格があるのも、見逃せない。

なお、本日演奏するのは、原曲の混声4部から男声用に編曲したものである。

（今西　弘一）



指揮　今西　弘一（いまにし こういち）
南澪会合唱団指揮者
1957年大阪市立大学経済学部卒。現役時代、グリークラブ部長、混声合唱団初代指揮者を務める。卒業後ジュピター・コール、グリーン・エコーに入団。幹事長、団内指揮者として活躍した。退団後、職場の合唱団、地域のママさんコーラス、南澪会合唱団等の指揮者を務め、その後六甲男声合唱団、新生ジュピター・コールを経て現在に至る、また男声カルテット、キング・フロッグスのセカンドテナーを担当している。

ピアノ　石幸　千照（いしこう ちあき）
大阪芸術大学演奏学科卒業、同大学芸術専攻科修了。岡坂恭子、U.シュニー、ベルガー、平井令奈の各氏に師事。2005年関西フィルハーモニーと協演。2006年ロシア・サンクトペテルブルグ に於いて国立アカデミーオーケストラと協演、好評を博す。
現在、関西女子短期大学非常勤講師、ヤマハ音楽教室講師。南澪会合唱団他、多数の合唱団、声楽や器楽の伴奏者としても活躍している。ファニー・メンデルスゾーン・クラブ大阪、全日本ピアノ指導者協会会員。

Profil

南澪会は1940年に大阪商科大学（大阪市立大学の前身）グリークラブOBと現役部員によって設立された男声合唱団で、この年に第1回演奏会を催しました。

翌1941年戦争に突入し1945年敗戦までの間の活動記録や戦後間もない頃の演奏会などの詳細は残念なことに失われてしまいました。

合唱団として活動を再開したのは1953年で、1964年に第2回演奏会を開催しました。1980年、母校の創立100周年を機に、同窓会組織の南澪会とは別に「南澪会合唱団」を組織し、16年ぶりに第3回演奏会を開催しました。その後、一般の男声合唱愛好者にも参加を呼びかけ、市民合唱団として隔年に演奏会を開催しています。1981年から始まった＜5つのOB男声合唱の集い＞に毎年参加しています。

東京に「東京南澪会合唱団」があり活発に合唱活動を行っており昨年リサイタルを開きました。本日の合同合唱に有志が何人か参加します。

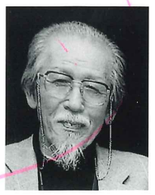
私たちはジャンルにとらわれず、世界中のいろんな名曲を歌っていきたいと思っています。来年秋には定期演奏会を行う予定で全員張り切って練習に励んでいます。

Message

第3回旧三商大OB交歓演奏会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

私たち南澪会合唱団の中心メンバーは、ほとんど定年をすぎております。むろん、若い人も若干おります。けれど、世間一般では年寄り扱いされているメンバーが中心だからこそ、運営にも力を注ぐことができると思っております。年齢と共に声のつやが無くなり、記憶力や視力も衰え、楽譜を見るには老眼鏡をかけ、すると指揮者はおぼろにしか見えない。けれど、合唱を楽しみ、また、それにかける情熱は衰えていないつもりです。そして、その情熱と成果が一致するよう、楽しみながら、日頃の練習に努力を重ねております。

本日、私たち南澪会合唱団は、ブラームスの「ジプシーの歌」をご披露します。私たちの歌う楽しさと、合唱にかける情熱の一端でも、皆様に伝わり、お楽しみ頂ければ幸いです。



南澪会合唱団
団 長
宮田　潤

マーキュリー・グリー・クラブ（MGC）

委嘱作品 吉岡 弘行 編曲
男声合唱のための

イタリアの歌

なぜかすべて男と女の愛の歌。それも女を讃え、女に焦がれ、移ろいやすい女心を一途に追いかける男の歌です。およそ日本語には「愛」という言葉はなかったのかも知れない。いや、男心を表に現すのを男の恥とでも考えるからだろうか……。精力的なラテンの男達のあからさまな、涙ぐましいばかりの愛の告白にMGCの控えめな紳士（？）の男達が迫れるのだろうか。

Piacer d'Amor　愛の喜び　マルティーニ作曲

「愛の喜び」といいながら実は「愛の喜びは一日も続かず、愛の悲しみは命尽きるまで続く……」と嘆く失恋の歌。他の男に心を移した不実な恋人をなじりながら、でも、「私は愛し続ける……」となんとも切ない男の歌。そしてそれを歌う男声合唱の面々の心の内は……。

La Serenata　ラ・セレナータ　トスティ作曲

トスティはオペラ全盛の時代にあって生涯ひたすら歌曲のみを作曲し、「理想の人」「セレナータ」「マレキアーレ」など珠玉の名作を残した。

夜のしじまに男は優しく愛の歌をかなでる「行け我がセレナータ（セレナーデ）。部屋で一人まどろんでいるいとしいあの娘の許へ。月は輝き　夜は深まる　暗い部屋では静かに　ランプが灯る　あの娘は　僕から遠い　行けセレナータ　あの娘の許へ」

Che gelida manina　“ラ・ボエーム”より冷たい手　プッチーニ作曲

オペラ「ラ・ボエーム」のなかの有名なテノールのアリア。貧乏詩人のロドルフォがお針子のミミに言い寄る。月明かりの中で鍵を探すふりをして闇に紛れてミミの手を握り、「なんと冷たい手でしょう。私に暖めさせて下さい。」「私は誰でしょう?（chi son）　わたしは詩人です」「貧しさにひるまず、愛と詩と歌の中に生きています」「さあ、あなたのことを聞かせて下さい」と歌い上げて女心に迫る。

Non ti scordar di me　忘れな草　クルティス作曲

恋人のために岸辺に咲く小さな花を採ってやろうとして川に落ち、力つきて握っていたその花を彼女に投げ、「私を忘れないでくれ!」と叫んで濁流に飲まれてしまったという言い伝えが花の名の由来。映画の中でジーリやタリアビーニなどの名テナーが歌って有名だ。「君が去った後は太陽もなくなった。花の咲く春も訪れない。さようならも言わずに去っていった君。私をわすれないで。」

Funiculi-funicula　フニクリ フニクラ　デンツア作曲

1880年にヴェスヴィオ火山にケーブルカーが敷設され鉄道会社の依頼で宣伝用に作曲したもので、世界最古のコマーシャルソング。歌詞は「ねえ、君は行ったかい?一緒に昇ろうよ」と恋人をデートに誘いたいがなかなか決断できないという他愛のないものだが、代表的なイタリアの民謡となった。あまりにポピュラーになって、リヒャルト・シュトラウスはこれがイタリアに古くから伝わる民謡であると思いこんで交響的幻想曲『イタリアから』に取り込んでしまったため著作権を巡って裁判沙汰になったほどだ。

（石林　紀四郎）

指揮　永井　宏（ながい ひろし）
マーキュリー・グリー・クラブ常任指揮者

1960年一橋大学卒。在学時代一橋大学男声合唱団コール・メルクール指揮者。指揮法を荒谷俊治氏（現在日本指揮者協会会長）、故浜田徳昭氏に師事。ビオラを東義道氏に師事。アマチュアオーケストラや合唱団の指導に豊かな経験を持つ。コールアネモネ常任指揮者。三井住友海上管弦楽団名誉指揮者。

ピアノ　中野　マリ（なかの まり）

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。お茶の水女子大学大学院修士課程修了（演奏学）。西尾悠美子、富本陶、遠藤秀一郎の各氏に師事。東京交響楽団などオーケストラとピアノ協奏曲の共演。アメリカ・ペンシルバニア州の音楽祭、中国音楽家協会の招聘による北京、成都、瀋陽でのリサイタルが好評を得た。

2000年よりマーキュリー・グリー・クラブのピアニスト。

編曲者のことば　（吉岡　弘行 よしおか ひろゆき）

『歌』という単語から最も容易に連想される国はイタリアであろう。イタリアには長い歌の歴史があり、偉大な作曲家と美しいメロディーの数々、また優れた歌手たちを輩出してきた。情熱的でフレンドリーな国民性と同じく音楽も人の心をダイレクトに揺さぶる魅力に溢れている。今回選んだ5曲、言わずと知れた名曲だが男声合唱による演奏となると違和感を覚える人もいるだろう。密集和音による重厚な響きの男声合唱は確かに宗教音楽や民謡などに適しており、自由に駆け巡るイタリアのメロディーとは対極にあるように思われる。しかしファルセットを駆使した男声の音域は3オクターブを超える広さをもっており、訓練された合唱団の表現力はとても豊かです。またイタリア音楽になくてはならないのが大人の男性の色香。きっとマーキュリー・グリー・クラブによって見事に表現されるでしょう。

Profil

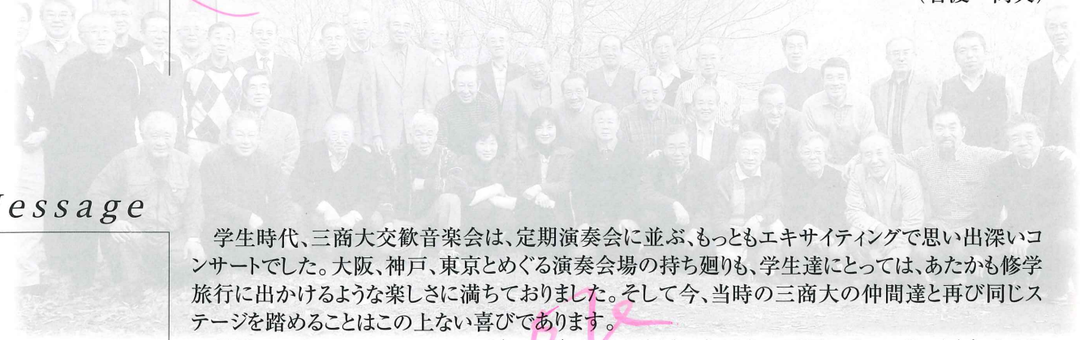
一橋大学男声合唱団「コール・メルクール」のOBを中心に1999年に結成。旧三商大の仲間である神戸大学、大阪市立大学の在京OB初め他大学OBの参加も得て、現在60名近い団員を擁し、毎週の練習では団員指揮者を中心に、学生時代の気持ちに戻って、和やかな中にも真摯な練習を積み重ねています。また、学生時代にご指導を頂いたご縁のある荒谷俊治（現日本指揮者協会会長）、田中信昭（現東京混声合唱団桂冠指揮者）、両先生をお迎えして一層のレベルアップにも挑戦しています。

これまで、5回の定期演奏会を重ねたほか、旧三商大OB合唱団交歓演奏会や津田塾大学OG「ゼンガーフェスト」とのジョイントコンサート、東京オペラシティのランチタイムコンサート、一橋大のホームカミングデー・コンサートなど活発な演奏活動を展開しています。更に南仏プロヴァンスや南ドイツへの演奏旅行も行い、夫々、各地の教会などでの演奏が地元の方々より熱い拍手を頂きました。

'06年8月には、田中信昭先生のプロデュース・指揮により、柴田南雄没後10周年を謳った「シアタピース柴田南雄の≪宇宙≫」を日生劇場で演奏し、ステージ上でのパフォーマンスを含むという、団員にとって全く新しい演奏形式を経験したことにより、一段の飛躍に繋がったと自負しています。

レパートリーは、近・現代日本の作曲家による合唱曲を初め、宗教曲、ドイツ歌曲、イタリア歌曲、ロシア民謡、スペイン歌曲など多岐に亘ります。今回、合同演奏曲に選ばれたフォーレ「レクイエム」（男声合唱版）は第3回定期演奏会で演奏し、また作曲家の故郷の地、南仏・プロヴァンスの教会でも歌った我々にとっての思い出深い曲ですが、今回は神戸、大阪の仲間達と合同の大編成での演奏が如何なるか、楽しみです。

（石渡　尚夫）



Message

学生時代、三商大交歓音楽会は、定期演奏会に並ぶ、もっともエキサイティングで思い出深いコンサートでした。大阪、神戸、東京とめぐる演奏会場の持ち廻りも、学生達にとっては、あたかも修学旅行に出かけるような楽しさに満ちておりました。そして今、当時の三商大の仲間達と再び同じステージを踏めることはこの上ない喜びであります。

私達マーキュリー・グリー・クラブ（MGC）は、六甲男声、南澪会の両団に比べ、その歴史ははるかに浅く、未だ8年のキャリアーしかありません。しかし、幸いこの間団員達の向上心、練習熱心さに支えられ、かなり精力的な演奏活動を展開してまいりました。さらに、この活動の大きな力になったのは、途中から仲間に加わってくれるようになった、六甲男声や南澪会の在京の精鋭達、他大学グリーOB達の存在であります。このことは、団内にある種の「異文化交流」を生み出し、互いの絆をより強く結び合い、私達の合唱生活をより豊かで、奥深いものにしてくれています。団員達がごく自然にこのような絆を結び合えるのも、学生時代から同じグリーマンであったという共通の記憶ゆえであろうと思います。そしてこの絆こそ、これからも大切に受け継がれるべきものと考えます。

マーキュリー・グリー・クラブ
団 長
藤本　淳三

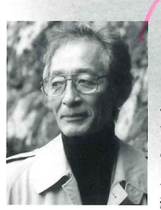
シューベルトの男声合唱曲

シューベルトはいうまでもなくロマン派の作曲家ですが、ロマン派の詩も音楽も当時のヨーロッパ世界の大きな思想的変化を象徴的に示しています。それはヨーロッパが、それまでの自然観を大きく変化させたという事です。それまでヨーロッパでは神が最高位に位し、その下に神の似姿をした人間、そしてその下に自然が位置していました。自然は人間に支配さるべき世界であると同時に、森は魔女やオオカミが住む悪魔の支配する世界でした。

ところがゲーテが自然を賛美して以来、その自然観は劇的変化を遂げます。それまで悪魔の棲んでいた森は聖なる世界となり、異教の信仰対象であった太陽が賛美され、狂気の象徴であった月に心の安らぎを覚えるという具合です。

今日演奏する作品でも、第一曲「夜」、第二曲「墓と月」は、それ以前には詩の題材としては想像も出来なかったものです。しかし夜も月も墓さえも、何と優しく語りかけてくるでしょう。「羊飼いの乙女」もまた牧歌的な自然賛美の歌なのです。第四曲「水の上の精霊の歌」が一種東洋的な輪廻思想のもとに人生を水の流れになぞらえたものであるなら、最後の「夜の清けさ」は夜の清らかさそのものを歌っています。今日は、そう言ったヨーロッパのロマン派に思いを馳せながら聞いて頂けたらと思っています。

（井上　和雄）



指揮　井上　和雄（いのうえ かずお）
六甲男声合唱団音楽監督兼指揮者

1963年神戸大学経済学部卒。著書に『モーツァルト心の軌跡』（サントリー学芸賞）、『ベートーヴェン　闘いの軌跡』、『ハイドン　ロマンの軌跡』（いずれも音楽の友社）、『ロンドン音楽紀行』（神戸新聞社）、『資本主義と人間らしさ』、『さらばヘーゲル』（いずれも日本経済評論社）など著書多数。また画家としても大阪、神戸で毎年個展を開催。神戸芸術文化会議会員。神戸モーツアルトクラブ会長。女声合唱団クール・フレール指揮者。

ピアノ　島崎　央子（しまざき ひろこ）

神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻科卒業、同大学音楽専攻科修了。国平由紀子、大江章子、山上明美、ゲイリー・スマイルの各氏に師事。ハンナ・ギューリック・スエヒロ賞を受賞。第8回、第9回「西日本新人ピアノコンクール」入賞。第8回摂津音楽祭で奨励賞を受賞。第62回東京読売新人演奏会に出演。神戸女学院大学オーケストラ、関西フィルハーモニー管弦楽団と協演のほか、数多くの演奏会に出演。2004年ソロリサイタルで稲庭達氏と共演。

Profil

歴　史

1954年1月に誕生。1954年春の卒業を間近かにひかえたグリーメン数名が、卒業後ももっと質の高い音楽を作っていきたいと、柚花昭先輩をくどいて設立されました。六甲山の麓で生まれたので『六甲男声合唱団』と命名。その年の5月僅か20名で関西合唱祭に出演、少人数にもかかわらず目指すものを如何なく発揮し、聴衆の称賛をえて当時の合唱界に新風を吹き込むことができました。しかし団員は同時に企業戦士でもあったため、日本経済の高度成長とともに超多忙、転勤などの事情が重なり、1967年頃活動休止のやむなきに至りました。1977年復活。1994年に40周年記念演奏会を開催。爾来隔年ごとに定期演奏会を開催。2004年には創立50周年記念定期演奏会を開催しました。一方2000年（フランス）、2003年（フランス）、2005年（ドイツ）に海外演奏旅行を行いました。

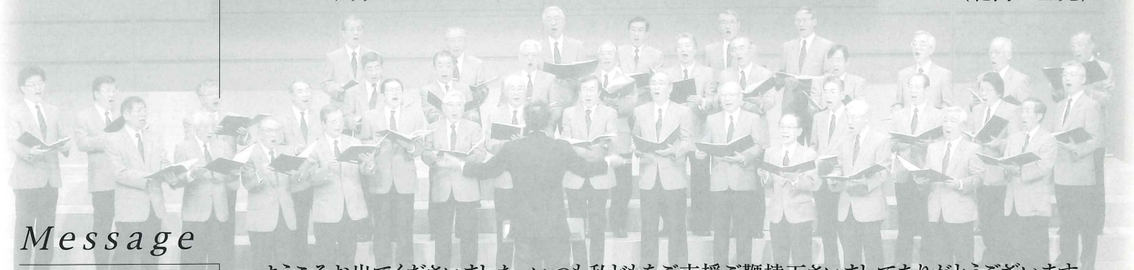
三人の指揮者

現在、田中安夫（神戸大グリー1960年卒）、井上和雄（同1963年卒）、平林陽（同1995年卒）の三人を指揮者として擁しています。音楽監督を兼任している井上和雄が、自ら発声指導を行うことにより、声作りと音楽作りが有機的に一貫した方針で実践できるという、他の多くの合唱団にはないユニークな体制で、それが当団の誇るアドヴァンテージとなっています。

近年の演奏曲

2002年 新実徳英作曲「われもこう」、田中安夫編曲日本の歌「ふるさと」「浜辺の歌」「出船」など
2003年 デュオーバ作曲「ミサソレムニス」
2004年 信長貴富作曲「新しい歌」、中村茂隆作曲「燃え上がれ　やさしい海よ」「風の 中で歌う空っぽの子守唄」、フォーレ作曲（Jan Dik編曲）「ラシーヌの雅歌」Op.11、シューベルト作曲「水の上の精霊の歌」D714
2005年 バロック時代のモテット
2006年 フォーレ作曲（吉岡編曲）「レクイエム」Op.48、大中恩作品集、平林陽編曲スクリーンミュージック

（花岡　亜光）



Message

ようこそお出でくださいました。いつも私どもをご支援ご鞭撻下さいましてありがとうございます。本日は、その昔三商大と呼ばれた三大学の、男声合唱団OBが中心になって活動をしている三つの合唱団が、初めて神戸に集う記念すべき交歓演奏会です。

私的な思い出で恐縮ですが、実はちょうど50年前の1957年、私は神戸大学グリークラブの新入生として旧三商大交歓音楽会（1957年6月21日於神戸国際会館大ホール）で、男声合唱キャリアの初舞台を踏ませて頂きました。爾来半世紀、あのとき共に歌った神戸大グリーのみならず一橋や大阪市大の先輩同輩たちと、再び今日一緒に同じステージに立てることは感無量です。

尤も現在の当団には私より若い後輩や神戸大グリー出身ではない団員が多数おりまして、50年前の感傷などとは無縁の、そして人生の年輪を感じさせる大人の歌唱をお聞かせできるものと思います。シューベルトは男声合唱の宝庫のひとつといっても過言ではありませんが、一筋縄ではいかない難しさがあります。しかしピタッと決まったときの美しさは絶品で、だからこそシューベルトを歌うのですが、そのロマンをうまくお伝えすることができますかどうか。ベストを尽くして歌いますので、どうぞ最後までお付き合い下さいますようお願い致します。

六甲男声合唱団
団 長
花岡　亜光

合同演奏

フォーレ作曲 レクイエム

吉岡 弘行 編曲による
男声合唱版

ガブリエル・フォーレ（1845～1924）は言うまでもなくフランス音楽を代表する作曲家です。その洗練された情感は組曲「ペレアスとメリザンド」を初めとしてよく知られていますが、何といっても今日演奏される「レクイエム（死者のためのミサ）」が彼を代表する最高傑作と呼んでいいでしょう。しかしこの曲がキリスト教の信仰も持たず、ましてカトリックの宗教儀式を知らぬ人々にも親しまれ、感動を与え続けている事を思うと、不思議な気がします。その点ではモーツアルトの「レクイエム」についても同じことが言えるでしょうが、特にフォーレの場合、その感を深くします。

というのはモーツアルトのレクイエムは、神の裁きを前にした極めて人間的な感情を歌い上げているのに対して、フォーレのレクイエムこそ極めて宗教的で、清澄な感情を歌っているように思えるからです。しかしこの曲に親しめば親しむほど分かってくるのは、宗教的感情と言われているものが、実は人間誰もが抱く何ものかへの憧れの感情であり、それが満たされたときの安らぎの感情でもあるという事です。そういったもので心の中が満たされたとき、そこに官能的とさえ呼びうる至福の世界があらわれます。いやフォーレのレクイエムこそ官能的至福を歌ったところに特徴があるといえないでしょうか。だからまたこの曲が現れたとき、これは異教的なものだと断罪されることにもなったのでしょう。ともあれ、その素晴らしい世界がここに現れる事を願って演奏いたします。

フォーレの「レクイエム」は御存知のように、もともと混声合唱とオーケストラのために作られたものですが、今日は作曲家吉岡弘行さんの編曲による男声合唱版をキーボードの伴奏で第一番「入祭唱とキリエ」、第三番「サンクトゥス（聖なるかな）」、第五番「アニュスデイ（神の子羊）」の順にお送りします。

第一曲目の「入祭唱とキリエ」は「レクイエム」という言葉と共に荘重で印象的な導入部で始まりますが、アンダンテからの優美な旋律は、激しい問いかけに変わり、最後は「主よ憐れみ給え」と静かに終わります。三曲目「聖なるかな」は三拍子の穏やかな前奏に乗って出てくる高声部と低声部との掛け合いが優美ですが、ダイナミックなクライマックスに向かうのも聞き所です。第五曲「神の子羊」はイエスの事を指していて、通常イエスへの思いを優しく語るスタイルが多いのですが、フォーレは様々な転調のすえドラマティックな展開をし、最後は第一曲の冒頭の荘重な「レクイエム」の主題で終わらせています。第五曲の最後を冒頭の「レクイエム」で締めくくっているのは、フォーレがこの曲を最初に作曲したとき、以上の五曲で「レクイエム」を完成したためでしょう。

この曲が世に現れたときは宗教界では物議をかもしましたが、一般には好評が続き、オーケストラの編成が大きくなると共に更に二曲付け加えることになりました。したがって現在では7曲が「レクイエム」の完成された姿になっていますが、今日は、時間の都合もあり、以上の三曲を三つの合唱団の合同演奏でお届け致します。どうかお楽しみ下さい。

なお曲の性格上、曲のあいだでの拍手はお控え下さい。

（井上　和雄）

Essai

三商大交歓音楽会の思い出

私は学生時代（昭和30年～34年）に一橋大学コール・メルクールに所属していたお陰で合計4回（大阪、東京、神戸、大阪）の「三商大交歓音楽会」に出演することが出来た。

なにしろ半世紀も前のことでもあり記憶も不確かではあるが、最も思い出に残る「三商大」は、昭和30年6月30日に大阪桜橋の産経会館で開催された戦後復活第一回目の交歓音楽会である。入学したばかりの私は初めての演奏旅行に期待と不安が交錯する思いで大阪行きの東海道線急行列車に乗ったのである。当時、東京から大阪までは7～8時間かかったと記憶しているが、途中の名古屋駅で4年生のFさんの姉上がアイスクリームを差し入れて下さったりで大学生の修学旅行?気分の楽しい旅となったのである。

大阪駅のホームでは大阪市大や神戸大の皆様の出迎えを受け、ハモリながらエールの交換を行い、交歓音楽会の気分はいやが上にも高まった。

さて本番である。立派な産経会館ホールで素晴らしい男声合唱を披露する大阪や神戸の皆様（いずれも70～80人の大合唱団、わが方は40名余の中型合唱団?）のダイナミックな名演奏に圧倒され「流石、関西は合唱のレベルが高いなー」と感じつつ、合唱の部のフィナーレ（当時はオーケストラとの合同演奏会）を迎えた。

大合唱（合同合唱）と銘打ったプログラムの最後は三商大全員約200名による「巴里の若者の唄」（アダム作曲、津川主一訳詩、略称パリ若）であった。石丸泰郎国立音大教授の指揮の下、ステージを埋め尽くした200人余の男声合唱の迫力はその歌詞のラジカル（フランス革命がモチーフ）さと相俟ってそれはそれは凄いものがあり、歌っている私は背筋がゾクゾクする感動を覚えたのであった。

あれから52年、当時のステージ仲間を含めた三商大の同志と再び今日「合唱」することが出来る幸せをを噛みしめつつ、いつの日にか200人の大男声合唱団で「パリ若」をもう一回歌いたいなーと思う次第である。

MGC／小林 迪之（1959年卒）

六甲が生まれた頃

僕たちがグリーで過ごした4年に不満が有った訳ではなかった　しかしそれはあまりにも短く過ぎ去ってしまったし、我々の中に何か見果てぬ夢といったようなものが強烈に残ったのは事実だった、卒業を前にして我々を中心に合唱を続けようと言う機運が高まり、その時既に社会人になっておられた、柚花昭(初代指揮者)　嘉納洋二(初代団長・故人)の二人の先輩に登場願って六甲は誕生した、1954年春の事だった。柚花さんはピアノとヴァイオリンの名手、嘉納さんは神大ラグビー部でロックをやっておられたスポーツマンで、足も早くロックと言うポジションでも判るように背も高くなかなかの偉丈夫だった、それがこともあろうに(失礼!)その頃関西の大御所だったアルト歌手、市来崎則子さんにドイツリートを習っているという、ちょっと破天荒な人だった。(ついでに付け加えると彼はシューベルトが大好きで例えば冬の旅全24曲等は全部暗譜で歌っていた)　六甲は初めから自由で八方破れの愉快な集まりだった、規約のようなものは無かったしメンバーも勿論我々神戸大グリーOB54年卒が中心では有ったが他に甲南大　岡山大　関西大など多士済々、是は今も変わらぬ六甲の伝統といって良いだろう。

当時は敗戦後9年、ようやく海外からも一流の音楽家がぽつぽつと来日し始めていた。セルゲイ　ヤーロフの率いるドンコサック、黒人合唱団デポーア、ウエストミンスター聖歌隊又カラヤン、ケンプやゲバントハウスのコンヴィチニーが来てベートーベン交響曲の全曲チクルスをやるなど数は少なかったが我々は夢中になって話し合ったものである。しかし私にとって忘れられないのは、ゲルハルトヒッシュの来日である、昔の黒塗りの朝日新聞会館の立見席で聞いたシューベルトの冬の旅の絶唱を今も忘れる事は出来ない。その後数々の名歌手の登場で彼は忘れ去られてしまったが、三商大のメンバー方々の中には若しかして彼を懐かしく思い出される方がいらっしゃるかも知れない。

今日六甲はシューベルトを歌う、我々の合唱をみなさまに喜んで頂ければと思う。私自身は何か不思議なえにしのようなものを感じつつ参加します。

六甲男声合唱団／矢島　侃　（1954年卒）

郭再強先輩のこと

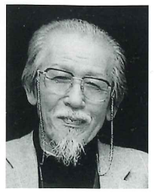
今、「三商大」と聞くと、私は、郭再強先輩（以後、郭さんと呼ばせて頂く）を思い出す。

三商大交歓演奏会が復活したのは私の在学中のこと。1955年市大が当番校となり、第1回旧三商大演奏会をサンケイホールで開催した。先輩は大勢来られたがみな若い方たちだった。その中で、わがグリークラブ創設（1925年）時の一人であるという郭さんが、台湾からはるばる来られたのは驚きだった。当時、日華平和条約を3年前に調印し、台湾の国民政府は戦勝国だが、大陸の共産党政府とは戦争状態にあった。

郭さんが大阪商大を卒業されたのは1929年で、私はまだ生まれていない。当時、台湾は日本の属領（日清戦争の賠償）で、日本の総督府が台北にあった。だから郭さんは、「私は、留学生ではない」と言われた。この数年前、山田耕筰は2度の欧米公演を終え、近衛秀麿も留学・帰国後、新交響楽団（現N響）を組織し、そして、山田は白秋と組んで日本歌曲を次々と発表するなど、西欧音楽に急速に親しみだした時代だった。

既に関学にはグリークラブがあり、大阪商大も、と、作ったものの、楽譜の入手難、五線譜など初めての部員などなど、コーラスに仕上げる苦労話は尽きない。この頃は、日本のコーラスの黎明期かもしれない。この翌年、長井斉先生が、市民合唱団の大阪コーラルソサエティを創られている。

ともかく、郭さんは、打ち上げ会場におられた。私が仲間に混じってワイワイやっていると、誰かが「おまえも大先輩のお相手をしろ」と、郭さんが大勢に囲まれて熱心に話されているところへ引っ張って行かれた。そこで聞いたのは、先の話に加え、戦前のグリークラブ活動の苦労や楽しかったこと、今日の演奏の素晴らしかったことなど、我々若造相手に熱心に語られていた。その身振りやしぐさ、語りの熱心さなどが強く印象に残っている。



それが、半世紀近く経た2003年、マーキュリー主催の第1回旧三商大交歓演奏会の打ち上げ会場で、古い記憶が突如よみがえった。以来「三商大」と聞くと瞼にうかぶ。

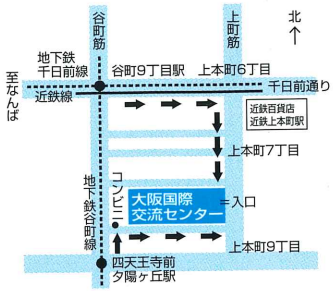
古い記憶がよみがえるのは、さよならが近いらしいけれど、思い出すと楽しい。私が郭さんとお会いしたのはこの時だけである。今、永眠されて30年近くになる。

南澪会合唱団／宮田　潤（1957年卒）

第５回
旧三商大OB男声合唱団

交歓演奏会

2011年11月27日(日)　大阪国際交流センター 大ホール
開場 午後1時30分　開演 午後2時　入場料 ¥1,000(全席自由)



●地下鉄谷町線・千日前線「谷町9丁目駅」下車　東へ進み、上本町６丁目「近鉄上本町駅」を南へ徒歩約13分。
●地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」①改札出て、北へ400m、コンビニを東へまっすぐ約300m。